究極のところ、僕は家内と二人で話しているだけでも楽しい

京都〈ゆうゆうの里)

小林 佑吉様 (83歳)・靖子様 (81歳) 令和元年5月

気づかされたとき 「家内を大事にしなきゃ」

奥様 役の時と比べて気が楽になりまし でしたね。 強い人でした。健康の面でも心配 た。とにかく仕事一途、責任感の 主人が退職してからは、

件になったと聞いてびっくり。3 おもてなしをするのですが、 て「家内を大事にしなきゃ」と気 日に一回のペースです。ハッとし 間のお客様件数を数えたら一○○ ご主人 家内への感謝は尽きませ ん。アフリカに駐在していた時に 仕事のお客様を家庭に招いて それから人生観が変わりま 一年



木漏れ日の遊歩道を散策する小

たと思うと、私はお話を聞かせて 様の方々とお話する機会も無かっ おかげです。 こに入れたのもあの時の気づきの いただいて楽しかったですよ。 一座にも行かなくなりました。こ 日本にいたらそういうお客

くれました 主人は、私にないものを補って

うになりました。 ついていろいろなことがわかるよ る趣味になりました。何度も二人 のチケットを買ってきてくれまし どんな芸術でも一番良い席二人分 も沢山連れて行ってもらいました。 で観るうちに背景やストーリーに 私も好きになり一緒に楽しめ 主人にはオペラや歌舞伎に

も楽しくないよね。 もオーケストラでも一人で行って りしますが、オペラでも歌舞伎で も二人」「にこいち」と言われた ご主人 友人から「どこに行くの

結婚する時には、 合っているんだろうと思います。 お互いの考え方や価値観が お互いがそんな

> 今そう思えるのは幸せです。 と二人で話しているだけでも楽し ご主人 究極のところ、僕は家内 にわかっていたわけじゃないから、

老後の資金も貯めようと、

どちらかが一人になったとき、施設 はどんなサポートをしてくれるか

思いました。はじめてテラス型居 吹っ切れました。 るかわからない」と思った時に りましたが、「自分にも何が起て 持ちもあって悶々としたこともあ りじゃない。まだ早い」と言う気 室やこの環境を見た時「これは良 どこかの施設に入った方が良いと 話にはなりたくないから、やはり うなってしまうんだろうと考えま 僕が先に亡くなったら、家内はど 主人が亡くなりました。その時に とは全く考えていませんでした。 ご主人 僕はそれまで老後のこ い!」と。一方自分は「まだ年寄 した。子供もいないし親戚のお世 二〇一六年のこと家内の友達のご

時が不安でした。〈ゆうゆうの里〉 いただけると聞いて心強いと思い の事や納骨の事まで相談に乗って では介護の事はもちろん、 私も一人になってしまった 主人がその気になってか

お手本になるお元

ら、入居を決めるのは早かったです。

それとスタッフは親切で、 でできるように、と目標を立てて 奥様 私もこの健康が末長く続 動かそうと思うようになりました。 るかに年上の方でも、 います。ここには、私たちよりは 何歳まで健康で自分のことを自分 くようにと願っています。だから、 をずっと続けたいなと思います。 もとても良い状態です。この状態 今まで歌わなかった演歌にも挑戦 二つのカラオケサークルに入り、 の方はみんな礼儀正しく、プライ にいるとものすごく心が和みます。 しています。体調的にも精神的に レチックジムを始めてから、体を バシーにも配慮があります。アス ご主人 自然が好きだから、 毎日自炊し

頑張って行きた たくさんいらっ るぐらい速く歩 たり、私たちが 目標に向かって 手本を励みに 気な入居者が 手本になるお元 く方など、 追いつけなくな しゃいます。お